

# 第95期 第2四半期 株主通信

平成26年1月1日から平成26年6月30日



真心を包み、幸せを守り、技術を進化させる

## 大倉工業株式会社

証券コード 4221





代表取締役社長 **高濱 和則**

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

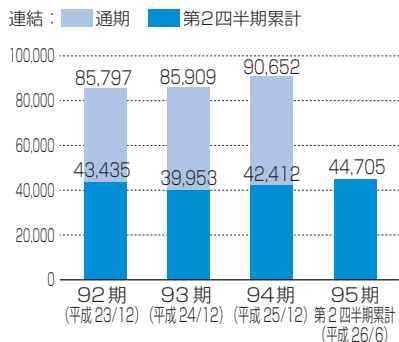
「第2四半期株主通信」を皆様にお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引き上げに伴う需要の変動はあったものの、企業収益の改善、設備投資の増加、雇用・所得環境改善に伴う個人消費の緩やかな持ち直しなどにより、景気は基調としては引き続き緩やかな回復局面にあります。

一方で当社グループを取り巻く事業環境は、特に売上高の6割弱を占める合成樹脂事業において、原材料価格上昇分の価格転嫁が難航するなどの厳しい状況が続いてまいりました。

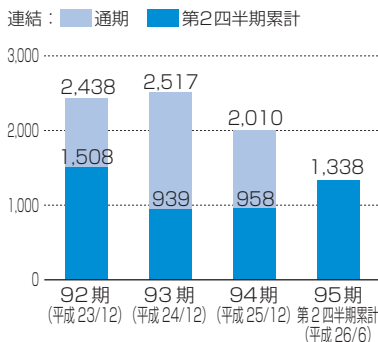
売上高の推移

(単位:百万円)



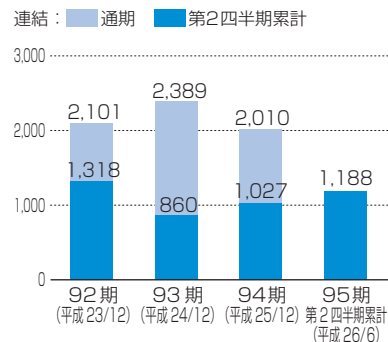
営業利益の推移

(単位:百万円)



経常利益の推移

(単位:百万円)



このような状況の下、当社グループは、製品価格の修正や細やかな拡販、固定費の削減に努めた結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は447億5百万円(前年同四半期比5.4%増)、営業利益は13億3千8百万円(前年同四半期比39.6%増)、経常利益は11億8千8百万円(前年同四半期比15.7%増)となりました。四半期純利益は税務上の繰り越し欠損金の解消に伴う法人税の増加などにより6億6千5百万円(前年同四半期比7.7%減)となりました。

当社グループが平成25年からの第四次中期経営計画において、その目指す方向性は「社会から信頼される企業であり続けること」「成長分野にソリューションを提供できる技術優位な企業集団であること」です。これらを実現するための戦略が【国内市場は「量」海外市場は

「質」】です。「量」の拡大を目指す取り組みとして、合成樹脂事業では、関西オークラの新工場建設が挙げられます。具体的にはこれまでの生産能力を25%程度高めるもので、本年6月に稼働開始しております。また「質」の追求のため新規材料事業部では新工場「G棟」を建設しました。これは液晶ディスプレイに向けた光学フィルム等の新しい生産技術に対応した工場で、現在量産の準備を進めています。

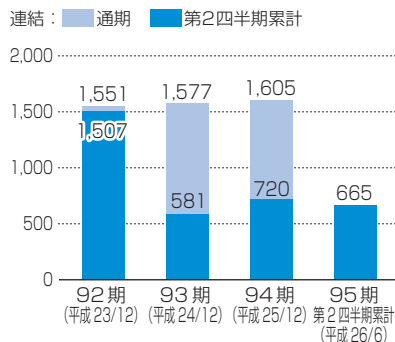
これらの施策を含めて更なる事業拡大を図り、第四次中期経営計画達成に向けて注力してまいります。

株主の皆様におかれましては今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年9月

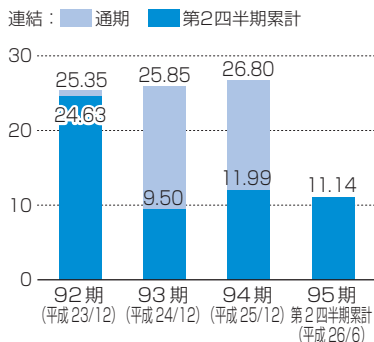
純利益の推移

(単位:百万円)

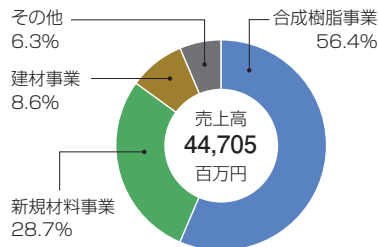


1株当たりの純利益の推移

(単位:円)



事業別第2四半期累計売上高構成比(連結)



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 第2四半期累計期間事業別概況(連結)

### 合成樹脂 事業



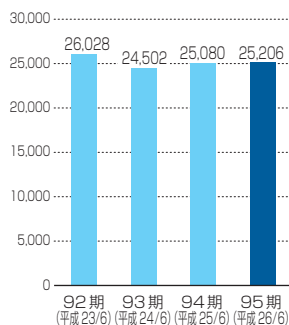
### 新規材料 事業



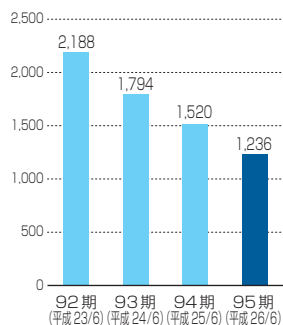
前連結会計年度に前倒し需要が発生した農業向けマルチフィルムや原材料価格上昇により製品構成を見直さざるをえなくなった産業資材用及び汎用包装向けフィルムを中心に販売数量が減少しましたが、製品価格修正効果により、売上高は252億6百万円(前年同四半期比0.5%増)となりました。しかし、価格修正が本格化したのは当第2四半期連結会計期間であったこと、電力料をはじめその他変動費の上昇分までをも修正することは叶わなかったことから、営業利益は12億3千6百万円(前年同四半期比18.6%減)となりました。

スマートフォンやタブレット端末向け光学フィルムの販売数量が好調に推移いたしました。この結果売上高は128億9百万円(前年同四半期比8.6%増)、営業利益は7億6千万円(前年同四半期比77.9%増)となりました。

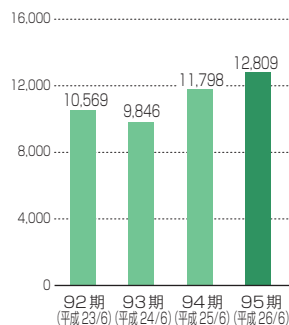
売上高の推移 (単位:百万円)



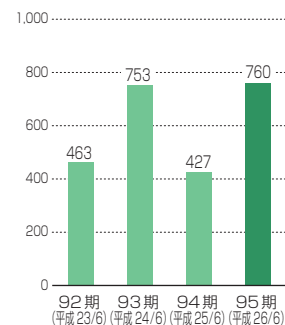
営業利益の推移 (単位:百万円)



売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



## 建材事業



前年6月のパーティクルボードJIS認証再取得以降、同製品の販売数量が順調に回復してきたため、売上高は38億5千4百万円(前年同四半期比35.6%増)となりました。

営業損失は固定費の削減などに努めたこともあり3千7百万円(前年同四半期3億2千2百万円改善)となりました。

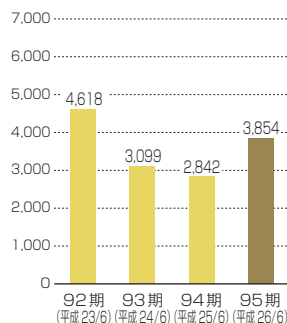
## その他



木材加工(プレカット)事業及び情報処理システム開発事業が順調に売上を伸ばしたため、売上高は28億3千5百万円(前年同四半期比5.3%増)となりました。しかし、宅地造成及び建物建築事業が労務費や建築資材上昇の影響を受けたため、営業利益は1億8千4百万円(前年同四半期比0.5%減)となりました。

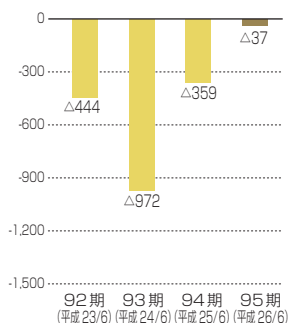
売上高の推移

(単位:百万円)



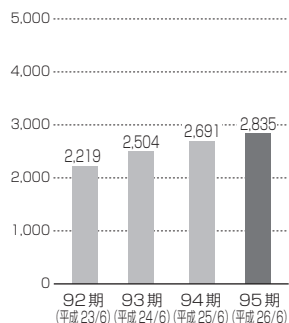
営業損失の推移

(単位:百万円)



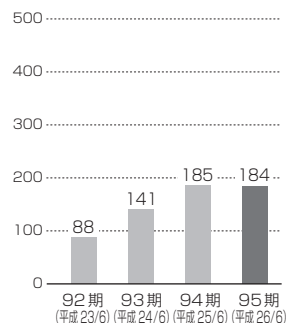
売上高の推移

(単位:百万円)



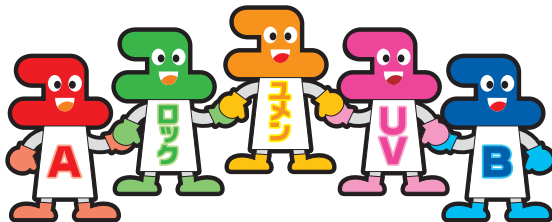
営業利益の推移

(単位:百万円)



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

接着剤のことなら  
僕らに任せて!!



当社は加工メーカーであり、開発力を向上させていくことが重要な課題です。  
今回は当社の要素技術をベースに開発している接着剤を特集します。  
意外と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、当社では高分子技術を駆使し、  
アクリル系接着剤を開発、製造、販売しております。  
今後接着剤はさまざまな製品や分野での需要の拡大が見込めます。

## アクリル系接着剤「ユメンシリーズ」のご紹介

ものともとのとを「くっつける」ために昔は天然系と分類されるでんぷん糊やタンパク質で出来たニカワ、天然ゴムなどが主に使われていましたが、化学工業の発達により合成樹脂接着剤が多く使われるようになりました。接着剤は業務用も含めると500種類以上あるといわれております。

当社のモノマー・ポリマー技術を活用した、環境にやさしい無溶剤型低臭気アクリル系接着剤は、金属固定、モーター(車載、OA機器)部品、ゴルフクラブ(シャフト固定)、スピーカー等々さまざまな分野で評価をいただいております。

具体的にはそれぞれ特長を持っている、2液硬化型のユメンボンド、嫌気硬化型のユメンロック、UV硬化型のユメンロックUVの3種類の接着剤を開発、製造しております。製品の特長はそれぞれ右記の通りで、ユメンボンドは各ホームセンター等でご購入頂けます。





## ● 大倉の接着剤

### MMA(メタクリル酸メチル)を使用していない!

そのため

- 引火点が70℃以上と高い  
(MMAは11℃と低い→危険等級が高い)
- 臭気が少ない
- 容器の自由度が高い  
(廃棄の際にかさばらない)
- 冷蔵保存が不要
- 保存安定性が良い

大倉の接着剤は、  
アクリル系でも  
非MMAタイプ  
なんだよ!!



扱い易い!!  
人にも地球にも  
優しい!!



## ● 接着剤の構成

いろいろなものを混ぜて  
作っているんだよ!



## ユメンボンド® (2液硬化型)

### 特長

- 常温速硬化
- 接着強度のバランス良好
- 計量が不要

### 用途例



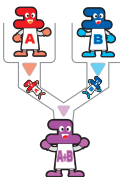
金属板金 (パネルの裏打ち補強)



スピーカー

(ダンパー、コーン、マグネットの接着)

モーター (マグネットの接着)



くっつく!!

## エメンロック® (嫌気硬化型)

### 特長

- 空気を遮断すると固まる
- 一液で作業性が良い
- 常温(加熱無し)で固まる

### 用途例



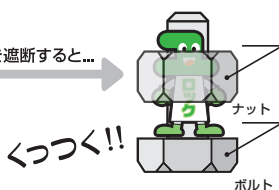
はめ合い部の固定  
(ベアリング/シャフト)



ネジの緩み止め



空気を遮断すると...



くっつく!!

## エメンロック® UV (UV硬化型)

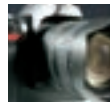
### 特長

- 紫外線照射により固まる
- 一液で作業性が良い
- 硬化が速い
- 色々な材質に密着性が良好

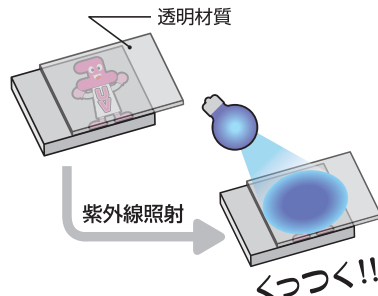
### 用途例



光学用部品、ガラスの接着



スピーカーコイルの接着



くっつく!!

## 第2四半期連結財務諸表

### Point1 資産合計

有形固定資産などの固定資産が9億9千5百万円増加したものの、受取手形及び売掛金などの流動資産が20億2千7百万円減少しましたので、総資産は前連結会計年度末と比べ10億3千1百万円減って、896億9千9百万円となりました。

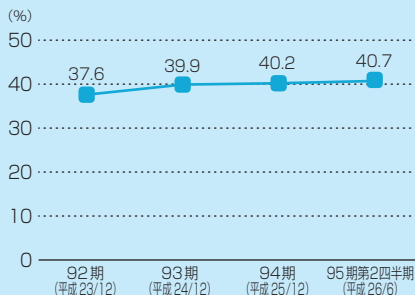
### Point2 負債合計

1年内返済予定の長期借入金など流動負債が38億1千3百万円増加しましたが、長期借入金などの総負債は固定負債が49億3百万円減少したため、前連結会計年度末に比べ10億8千9百万円減少し531億8千1万円となりました。

### Point3 純資産合計

利益剰余金が2億1千7百万円増加したことなどにより純資産は前連結会計年度末に比べ5千7百万円増加し365億1千7百万円となりました。以上の結果自己資本比率は前連結会計年度末に比べて0.5ポイント上昇し、40.7%となりました。

自己資本比率の推移



## 四半期連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

科目	94期末 平成25年12月31日現在	95期第2四半期末 平成26年6月30日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>45,238</b>	<b>43,210</b>
現金及び預金	7,838	7,128
受取手形及び売掛金	27,093	25,993
その他	10,306	10,088
<b>固定資産</b>	<b>45,492</b>	<b>46,488</b>
有形固定資産	36,392	37,632
無形固定資産及び投資その他	9,098	8,855
<b>1 資産合計</b>	<b>90,730</b>	<b>89,699</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>39,190</b>	<b>43,004</b>
<b>固定負債</b>	<b>15,080</b>	<b>10,177</b>
<b>2 負債合計</b>	<b>54,270</b>	<b>53,181</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>34,333</b>	<b>34,548</b>
資本金	8,619	8,619
資本剰余金	9,068	9,068
利益剰余金	17,463	17,680
自己株式	△817	△820
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>2,126</b>	<b>1,699</b>
<b>3 純資産合計</b>	<b>36,459</b>	<b>36,517</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>90,730</b>	<b>89,699</b>

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。



## 四半期連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科 目	94期第2四半期(累計) 平成25年1月1日から 平成25年6月30日まで	95期第2四半期(累計) 平成26年1月1日から 平成26年6月30日まで
売上高	42,412	44,705
売上原価	37,105	38,834
販売費及び一般管理費	4,348	4,532
営業利益	958	1,338
営業外収益	265	130
営業外費用	196	280
<b>4 経常利益</b>	<b>1,027</b>	<b>1,188</b>
特別利益	6	2
特別損失	56	203
税金等調整前四半期純利益	978	988
法人税、住民税及び事業税	103	161
法人税等調整額	154	161
四半期純利益	720	665

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

科 目	94期第2四半期(累計) 平成25年1月1日から 平成25年6月30日まで	95期第2四半期(累計) 平成26年1月1日から 平成26年6月30日まで
<b>5 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,288</b>	<b>1,349</b>
<b>6 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△2,119</b>	<b>△3,001</b>
<b>7 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>412</b>	<b>955</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	62	△13
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△355	△709
現金及び現金同等物の期首残高	7,403	7,838
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,047	7,128

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

### Point4 経常利益

新規材料事業の光学フィルムが好調に推移したこと、建材事業の赤字が大幅に減少したことから営業利益が3億7千9百万円増加し、経常利益は11億8千8百万円となりました。

### Point5 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益に減価償却費を加え獲得した資金は28億3千万円でしたが、売上債権の減少を支払債務の減少が13億5千8百万円上回ったため、営業活動によるキャッシュ・フローは13億4千9百万円となりました。

### Point6 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果減少した資金は30億4千2百万円となりました。

これは主に合成樹脂事業及び新規材料事業における工場及び工場設備などの有形固定資産の取得によるものであります。

### Point7 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入れによる収入16億円、短期借入金の純増加額13億8千万円による資金の増加と長期借入金の返済による支出12億2千7百万円の資金の減少等により、財務活動の結果増加した資金は9億5千5百万円となりました。

## ● 株式会社 オークラホテル



(株)オークラホテル  
代表取締役社長 小林 一久

当社は高松と丸亀においてそれぞれが特長を持ったホテルを運営しております。オークラホテル高松は宿泊を主体とし宴会場とレストランを併設したビジネスホテルであり、オークラホテル丸亀は宿泊施設・宴会及び結婚式場・和・洋レストラン3店とパブ・バーを備えたホテルです。

人生のさまざまなシーンで皆様にご利用いただけますよう、社員一同努力してまいりますので今後ともどうぞよろしくごお願い申し上げます。

今回は株主様に特別優待宿泊プランをご用意致しました。是非ご利用下さい。

### 宿泊プランのご紹介

## お砂踏みと戒壇巡りを初体験する

### 四国霊場開創1200年(平成26年)記念企画 宿泊プラン

弘法大師「空海」の足跡を訪ね四国八十八ヶ所の寺を巡るお遍路の旅は老若男女を問わず静かなブームになっています。そんなお遍路の旅にでたくてもなかなか出られない方のために短時間でご利益が頂けるプランを用意しました。

#### 【お砂踏み】とは

八十八ヶ所霊場のご本尊をお祀りしてその札所境内のお砂をそれぞれのご本尊の前の足元に敷きそれを踏みながら礼拝していくことにより、八十八ヶ所霊場を巡拝するのと同じご利益が頂けるものです。

●ところ… 総本山善通寺 遍照閣 ●時間… 9時～16時(入場無料)

#### 【戒壇巡り】

闇の中で  
生まれ変わる

まったく光のない御影堂の下100mを歩いて、弘法大師と縁を結ぶとこととされています。

●時間… 8時30分～16時

ホテルにて割引券をご用意しています。



### 株主様特別ご優待

# 7,500円

\*グループ4名様まで (税込・税別)

#### 夕食 いろは御膳

- ◆前菜箱 / 季節の五種盛
- ◆御飯 / 季節の釜飯
- 煮物 / 鯛、海老
- 煮物 / 鯛のあら煮
- ◆天ぷら / 季節の真丈、穴子
- ◆蒸物 / 茶碗蒸し
- ◆デザート / 醤油豆アイス
- ◆椀 / 豚汁

\*メニュー内容は季節や食材の都合により一部変更になる場合がございます。

#### 朝食 和洋バイキング [AM7:00～AM10:00]

1F/ブッフェ&カフェ「グリーンラウンジ」



●ご予約・お問い合わせは ☎(0877)23-2222

●ご予約時に株主様ご優待利用とお伝え下さい。

●丸亀駅より車で5分～6分

## 会社概要

(平成26年6月30日現在)

社 名 大倉工業株式会社  
 設 立 昭和22年7月11日  
 資 本 金 8,619,616,071円

## 業務内容

- 各種ポリエチレン製品及びポリプロピレン製品の製造販売
- 光学機能性フィルム等の製造販売
- 加工合板、パーティクルボード及び加工ボード等の製造販売

## 役員

(平成26年6月30日現在)

代表取締役社長	高 濱 和 則
代表取締役常務取締役	長 尾 和 任
代表取締役常務取締役	豊 田 員 史
取 締 役	田 中 祥 友
取 締 役	神 田 進
取 締 役	山 田 和 裕
取 締 役	上 原 英 幹
常 勤 監 査 役	行 天 武
監 査 役	眞 鍋 清
監 査 役	馬 場 俊 夫
監 査 役	町 田 研 一 郎

(注) 監査役のうち、眞鍋清、馬場俊夫、町田研一郎の3氏は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

## 株式の状況

(平成26年6月30日現在)

発行可能株式総数 140,108,000株  
 発行済株式の総数 62,074,351株  
 株主数 6,594名

## 大株主(上位10位)

(平成26年6月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
住友化学株式会社	4,818	8.07
株式会社中国銀行	2,911	4.88
オークラ共栄会	2,343	3.93
日本生命保険相互会社	1,939	3.25
株式会社百十四銀行	1,920	3.22
住友林業株式会社	1,579	2.65
三井住友海上 火災保険株式会社	1,358	2.28
JSR株式会社	1,317	2.21
大倉工業従業員持株会	1,282	2.15
株式会社ヤクルト本社	1,259	2.11

(注) 当社は自己株式2,403,883株を所有しておりますが、上記大株主から除いております。また持株比率は自己株式を控除して計算しております。

# 株主メモ

決算期	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
株主確定基準日	定時株主総会 12月31日 (その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。) 剰余金の配当 期末配当 12月31日 中間配当を行う場合 6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告の方法	電子公告とし、当社ホームページ( <a href="http://www.okr-ind.co.jp">http://www.okr-ind.co.jp</a> )に掲載いたします。ただし電子公告によることができない事故やその他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部

## ●住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

## ●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。



<http://www.okr-ind.co.jp>

当社ホームページでも、最新のIR情報をご案内しております。

